

〇〇さま

△△オークションご提案書 (Ver3.0)

・ヘリテージオークション、8/18（金）**なお提案書ではケース入りコインの写真を提示していますが、著作権に配慮し本資料では削除しています**

上記オークションにつき、以下提案させていただきます。ご検討のほどよろしくお願いたします。

31007

シシリー、シラクサ、デカドラクマ銀貨

NGC-AU Strike5/5 Surface4/5 Fine Style

エウアイネトスのサイン、ウラの高い部分、オモテのアレトウーサの髪に少し摩耗がありますが、概して高状態です。なおウラのニケが少し切れているのは欠点です。オモテ／ウラともクリーニングの痕跡がなく重厚感があります。今年1月のヘリテージに、ほぼ同クラスの個体が出てきて HP 39,000 ドルでした、でもあれはすごく安かったと思います、オークション終わったあとで僕も参戦していたらと悔やみました。

エウアイネトスとキモンの件

「人気が高く値が張るのはどっちか」という質問をよく受けます、以下は2022年10月キエンカーのオークションからの説明文です、これによるとエウアイネトスのほうが細部へのこだわりがあり人気もあるとされています。

『紀元前400年頃の最も有名な二人の彫刻家は、キモンと、本品をデザインしたエウアイネトスである。G.K.ジェンキンス (『ギリシア領シチリアのコイン』57頁)は、いずれにせよエウアイネトスの作品をキモンの作品よりも高く評価しており、この見事な作品がそれを物語っている。有名なデマレテイオンと呼ばれる最初のシラクサのデカドラクマでは、クアドリガの馬はまだ穏やかな歩幅で描かれていたが、私たちの作品では、馬は勢いよく後ずさりしている。エウアイネトスは、裏面のアレトウーサの頭を細部までデザインして

いる。従来は頭部を取り囲むように描かれていたイルカも、この作品では左右非対称に配置され、生き生きとした緊張感を高めている。』

一方で最近のオークションを見ると、キモンのほうに高値落札が目立ちます。

□エウアイネトス

・ 2023.7 HA NGC-Ch XF 3/5 5/5 Fine Style: USD 30,000



・ 2023.5 HA NGC-Ch XF 4/5、 5/5 Fine Style: USD 28,000



・ 2023.1 HA 裸だけど AU ある: USD 80,000



・ 2023.1 HA NGC-AU 5/5 ,4/5 Fine Style: USD 39,000



□キモン

・ 2023.5 HA NGC-Ch XF ★ 4/5 5/5 Fine Style: USD 150,000



・ 2022.10 スイス 裸だけどかなり良い AU: CHF 750,000



・ 2022.10 スイス 裸だけどかなり良い AU: CHF 700,000



□最大ビッド：58,000 ドル

□最大ビッドで取れた場合の総支払額の目安：1200 万円

31130

ドイツ領ニューギニア、極楽鳥 5 マルク

NGC-PR66 (FDC=完全未使用)

先日の NCA57 で PR64+ Cameo が BP 込み 1050 万円でしたが、あの個体は特別によかったです、参考になるのは AW29 の NGC-PR66 ですが、BP 込み 560 万円でした。海外では 2022 年 8 月ヘリテージ、PCGS-PR64 が HP38,000 ドルというのがあります。NGC-PR66 は準最高鑑定で同率 2 枚あります、なのでめったに出てきません、上の 2 例をみると AW29 はいかにも安いです。今回はヘリテージなので昨年 8 月の PCGS-PR64 が HP38,000 ドルラベースにせざるをえません。状態は確かにいいですが、ウラ面のフィールド部分が少し曇っているのが欠点です、オモテも極楽鳥の足元が少し曇っています。これがなければ Cameo なのですが。

最大ビッド：54,000 ドル

最大ビッドで取れた場合の総支払額の目安：1110 万円

32860

イギリス東インド会社 1834 年、ウィリアム 4 世 1 ルピー、プルーフ、アーリストライク

NGC-PR64 (UNC+)

1834 年発行の初期リストライク、S&W カタログ番号は 1.28 です、1.28 は初期のリストライクのプルーフ貨です、1834 年銘の試铸貨はタイプ 1 からタイプ 5 までありますが、本貨は最終版のタイプ 5 です、一般のリストライク貨は 1950 年以降にアメリカのコイン商によって収集家向け、あるいは投機家向けに铸造されたとみられていますが、この初期リストライク貨(タイプ)は 1834 年 3 月に東インド会社によって発行されたと考えられています、カタログ価格もそれなりに高く、1.28 は 5000 ドルとなっています。ただしこの価格は近年のインドコイン相場上昇にともなって過去のものになってしまいました。この初期リストライクはめったに出てきませんが、ヘリテージのサイトのように昨年 8 月に PR65 が出品され HP8000 ドルでした。また今年 1 月のヘリテージにも PR65 が出品され、HP は 11,000 でした、今回はすでに HP12,500 まで来ています、インドコインの注目は高く、こんかいは結構競ると思いますよ。

最大ビッド：18,000 ドル

最大ビッドで取れた場合の総支払額の目安：370 万円

32861

イギリス東インド会社、ウィリアム 4 世のモハール金

NGC-MS61 (AU+)

ヘリテージのサイトでは発行枚数 9133 枚となっていますが、根拠は不明です。この銘柄は RS タイプと F タイプがあり、ウィリアム 4 世の首に描かれたイニシャルで判定します、本貨は RS タイプ(KM-451.2)で発行数は 28,612 枚です。ご参考までに F タイプは KM-451.3 で発行数は 11.1 万枚です。この銘柄はめったに市場に出てきませんが、MS61 は真ん中より少し良い状態です。感覚的にはビクトリアのモハール 20 枚に対し、本銘柄 1 枚くらいです。参考になるのは今年 1 月のヘリテージで、AU58 が HP 8,250 ドルです。

最大ビッド：16,000 ドル

最大ビッドで取れた場合の総支払額の目安：330 万円

32866

イギリス東インド会社 1841 年モハール「フォックスフェイス」

PCGS-MS62 (AU)

狐顔のビクトリアです、ヘリテージの説明では S&W 3.11 となっていますが、僕は S&W2.3 の間違いだと思います。同年発行の丸顔 (S&W 3.××) のビクトリアとは別物であるのは間違いありません、レア度は丸顔タイプより随分と高いですが、PCGS の評価 MS62 はややオーバークレードだと思います。今年ヘリテージ 7 月に NGC-MS62⇒HP19,000 ドルというのがありますが、このバラエティはなかなか出てきません。

最大ビッド：21,000 ドル

最大ビッドで取れた場合の総支払額の目安：430 万円

33026

オランダ東インド会社 1738 年デュカトーン VOC

NGC-AU55 (EF)

VOC はオランダ東インド会社のマークです、シルバーライダーの中でもジャカルタの本拠を置く東インド会社が発行した激レアコインです、残存数は 1000 枚ほどかもしれません、NGC の鑑定総数も 72 枚しかありません。状態は AU55 ですが、VOC デュカトーンはこれでも十分な高状態です。状態も手が加わった痕跡がなく重厚なたたずまいです。

過去事例、

ヘリテージ 2019 年、NGC-AU58⇒HP 16,000 ドル、

ヘリテージ 2019 年、NGC-MS63⇒HP 18,000 ドル、

ヘリテージ 2020 年、NGC-MS62⇒HP 30,000 ドル、

ヘリテージ 2021 年、NGC-MS61⇒HP 10,000 ドル、

ヘリテージ 2021 年、PCGS-AU53⇒HP 8,250 ドル、

ヘリテージ 2023 年、PCGS-AU Detail Cleaned⇒HP 17,000 ドル、

最大ビット：15,000 ドル

最大ビットで取れた場合の総支払額の目安：310 万円

(株) 銀座なみき FP 事務所

2023.8.10